日蓮宗のお題目の独自性をどう伝えるべきか

塩入幹丈

「週刊ダイヤモンド」二〇〇九年九月一二日号に記載された全宗教法人信者数ランキング。この中で信徒百万人以上とされた団体が一九ありましたが、その内、いわゆるお題目系は六団体ありました。この六つだけでもその合計は約二千百万人。むろんこれは公称ですから、そのまま鵜呑みにはできませんが、それでもお題目を唱えているだろう人々の多さは相当なものと言えるでしょう。

しかしこの数イコールお題目の流布だとは言えないとするのが、日蓮宗に属する私たちのほぼ共通する意見でしょう。

私たちは日蓮大聖人様を通してお題目を受持することで、お釈迦様の功徳をいただくことができるのです。

お釈迦様 ↓ 日蓮大聖人 ↓ 凡夫

この三者の流れが正しく繋がっているかいないか、そこに日蓮宗と他宗教とのお題目の違いがあります。

＊「我等この五字を受持すれば、自然に彼の因果の功徳を譲り与えたもう」（本尊抄七一一）

「小児乳を含むに、その味を知らざれども自然に身を益す。耆婆が妙薬、誰か弁てこれを服せん。水心なけれども火を消し、火物を焼あに覚あらんや」（四信五品抄一二九八）

「さればさせる解なくとも、南無妙法蓮華経と唱るならば悪道をまぬかるべし」（法華題目抄三九二）

お題目は誰もが救われるための教えです。唱えることこそが必修条件であり、それだけで自然にその功徳を頂くことができるのです。

ゆえに唱える人にその意味が分かる分からないは、本来は関係ありません。

＊しかも、もともと法華経は功徳あふれるお経です。どんな教えであれ、お題目をひたすら唱えるならば幾ばくかの利益を体験することができるのは当然でしょう。ここに落とし穴があります。

＊「謗法の者十方の地のごとし。正法の者は爪上の土のごとし」（開目抄五四九）

理屈がわからなくてもいい。理屈がわからなくても御利益がある……そこから知らず知らずしてお釈迦様・大聖人の流れでない、正当でないお題目に嵌る危険も多いのです。

＊どんなお題目にも多少の現世利益はあるでしょう。ただし正当たるお題目でなければ、死後に日蓮大聖人に導かれ、霊山浄土でお釈迦様を拝することは敵いません

「師弟供に霊山浄土に詣でて、三仏の顔貌を拝見したてまつらん」（観心本尊抄副状七二一）

「我法華経の信心をやぶらずして、霊山にまいりて返てみちびけかし」（開目抄六〇四）

「此功徳空しからざれば、子と倶に霊山浄土へ参り合せ給ん事、疑なかるべし」（光日上人御返事一八七九）

ご本佛お釈迦様の霊山浄土こそが本当の浄土。他に撰ぶべき浄土はなく、霊山往詣できてこそ真に死後の安穏は得られるのです。

「夫れ始め寂滅道場・華蔵世界より、沙羅林に終るまで五十余年の間、華蔵・密厳・三変・四見等の三土・四土は、皆成劫の上の無常の土に変化する所の方便・実報・寂光・安養・浄瑠璃・密厳等なり。能変の教主涅槃に入れば、所変の諸仏随つて滅尽す。土もまた以てかくのごとし」（本尊抄七一二）

＊死後の安穏だけではありません。正当たるお題目が広まらなければ、今この現実の世界が真に救われることもありません。

「衆生劫尽きて　大火に焼かるると見る時も　我が此の土は安穏にして　天人常に充満せり」（如来寿量品第十六）

「この時地涌の菩薩、始めて世に出現し、ただ妙法蓮華経の五字を以て幼稚に服せし」（本尊抄七一九）

この現実の本来の姿はご本佛お釈迦様の居ます寂光土（霊山浄土）であり、その本来ほの姿を顕現させるために世に出られたのが、本化上行たる日蓮大聖人なのです。

「汝早く信仰の寸心を改めて、速かに実乗の一善に帰せよ。しかればすなわち三界は皆仏国なり。仏国それ衰えんや。十方は悉く宝土なり。宝土何ぞ壊れんや。国に衰微なく、土は破壊なくんば、身はこれ安全にして、心はこれ禅定ならん。この詞、この言、信ずべく崇むべし」（立正安国論二二六）

＊霊山往詣による死後の安心も立正安国による現実の浄土化も正しいお題目があってこそです。

ここにお題目を伝え教える人、教師の重要性があります。

＊「慈覚・智証の義は法師と尼と黒と青とがごとくなるゆへに、智人も迷い愚人もあやまり候て、此の四百余年が間は叡山・園城・東寺・奈良・五畿・七道・日本一州皆謗法の者となりぬ」（報恩抄一二一七）

教師が間違えれば弟子も間違えてしまいます。鎌倉時代、日本国民皆が皆、積極的にお釈迦様や法華経を誹謗したわけではないでしょう。

しかし念仏者や真言師の教えを信じることで、多くの人々が知らずして法華経誹謗の罪を犯してしまったのです。

＊お題目も同様です。お題目を伝え教える立場の者が、お釈迦様から日蓮大聖人様への流れを無視したり変更しているならば、教えを受けた人たちは知らずして間違ったお題目を唱えることとなってしまいます。

＊ご本佛お釈迦様の存在こそがお題目の功徳の源泉です。お釈迦様のお立場を蔑ろにする教えに、お題目の真の功徳

はありません。

＊日蓮大聖人様なくしてお題目はなし。日蓮大聖人様を他の高僧と同列に扱ったり、日蓮大聖人様よりも偉い方がいると考える教えに、お題目の真の功徳はありません。

＊正しいお題目が弘まらなければ、立正安国の現実もほど遠く、唱え続けた人も死後、日蓮大聖人と共に霊山浄土でご本仏お釈迦様の尊顔を拝することもできないでしょう。

お題目を正しく理解し伝えていく。私たち日蓮宗僧侶の責務がここにあるのです。